

地域医療の目指す先とは

— 高梁市議会議員研修会 —



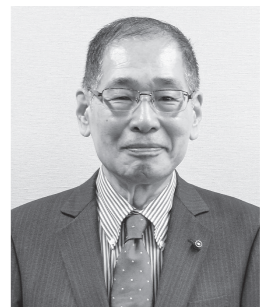
議員研修会の様子

2月6日に、城西大学経営学部いせきとむの伊関友伸教授を招き、「試練の時代の自治体病院経営」をテーマに行いました。伊関先生は総務省の「経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー」であり、特に公立病院の経営強化に深く携わっております。

先生は、研修会当日の午前中に大杉病院、高梁中央病院、成羽病院を視察し、市内の医療状況を踏まえた上で、成羽病院の経営分析と改善に向けた話をされました。

成羽病院では手持ち資金が毎年減少しており、安定した医療提供を続けるためには病床稼働率の改善や健康診断・リハビリテーションの積極的な受け入れ、近隣医療機関との連携強化などを行い、財務改善を図ることが急務との提言をいただきました。

新しく2つの会派が結成しました！



小林重樹



前野洋行



長田伸彦

高梁政志会 (令和7年9月22日結成)



宮田公人



榎隆宏

かけはし (令和8年3月25日結成)



会派

同じ考え方や政策を共有する議員が、議会内で活動を共にするためにつくるグループのことです。
高梁市議会では中立性の確保から議長、副議長は申し合わせにより会派に属することはできません。

市としての姿勢が問われる 「高齢者福祉」の方向性



前野洋行 議員

特別養護老人ホーム「鶴寿荘」について

Q 令和7年度に調査・研究された「高梁西部地区の医療・福祉の在り方」の報告書において、鶴寿荘については、令和9年度末をもって廃止の方向性が出されたが、「現状と課題」についてどのように分析しているのか。

A 2月末現在で定員50名に対して入所者は29名。5年ほど前から稼働率が低下。稼働率の低下に伴う収入減、また人件費の高止まり等により特別会計の財政を圧迫している状況。併せて、施設の老朽化に伴う改修費など維持管理費の増加や介護人材の確保が困難といった課題を抱えている。

Q 入所者数の減少は、市内高齢者数の減少もその要因と考えられるが、岡山県内の特別養護老人ホームの待機者数は6千人前後とも聞いており、今後、都市部の高齢者数はさらに増加し、広域型の介護施設である鶴寿荘の需要は十分にあるのではないかと懸念している。

A 施設への入所にあたっては、入所者及び家族の生活圏とのつながりが重要視される傾向にあり、現状、鶴寿荘の市外入所者は1名であり、過去の入所者を見ても数名程度となっている。

Q 鶴寿荘の運営について、以前より市外の社会福祉法人から要望等もあると聞いているが、今後、協議をする考えはあるのか。

A 令和9年度末の廃止という決定方針に変わりはないが、これからも民間の提案等によって何が最善か考えていきたい。



▲動画視聴はこちら

即戦力55歳以上の Uターン者に支援を



松岡隆雄 議員

Uターン者の支援について

Q Uターン者の支援の現状と年齢制限について問う。

A 本市では、Uターン者の実数は把握できていない。農業分野では、Uターンに限らず新規就農者に対し、国・県の制度（研修支援・経営開始資金など）や市の就農奨励金により支援を行っている。ただし、これらの中には49歳以下または55歳以下の年齢制限がある。

Q 55歳以上65歳未満のUターン者を対象とした支援金制度の創設を提案する。55歳以上のUターン者を対象とした本市独自の支援制度の創設について、市の考えを聞きたい。

A 55歳以上を対象とした新たな支援制度の創設は、現時点では難しいと考えている。一方で、年齢制限のない認定農業者制度などを活用すれば、機械導入など一定の支援は可能である。

Q 即戦力となる55歳以上のUターン者を地域再生の担い手と位置づけ、全国でも例のない戦略的政策を検討する考えはないか。検討するのもしないのか、明確な答弁を求めたい。

A 特定の年齢層に限定せず、すべての年代の移住・定住を推進していく考えである。農業に限らず、サービス業や製造業も含め、高梁市に求められる方々への施策を総動員して取り組む。提案の趣旨については、農業分野を中心に今後検討する。



▲動画視聴はこちら